

小学生による新たな挑戦―

津奈木を代表する野菜の「サラダ玉ねぎ」。
辛みが少なく、みずみずしいのが特長です。
津奈木町では、食・農・環境教育の一環で、
10年前から耕作放棄地で、
町、小学校、農家が一体となり、
サラダ玉ねぎの栽培を体験しています。
コロナ禍の中、ことしから栽培だけでなく、
インターネット販売に向けた、
ウェブページ作成に小学生が挑戦。
「たいがうまかけん、
全国のみんなにも食べてほしかー」
小さな学校で始まった、
大きな挑戦に迫りました。

【特集】

アグリビジネスチャレンジ事業

思いを、 届ける。



1_小学生が作ったウェブページ/2_ページ内にはサラダ玉ねぎのおいしい調理法なども掲載。写真は保護者の中で開催された写真コンクールで選ばれたもの/3_ウェブページに書き込まれた商品レビュー。評価はなんとすべて星5/4_購入者から届いた心温まる感謝の手紙



2
3
追加購入しました。
家族や友人にも分けたいと、楽しみに待つて、る所
つぼみ、フームの農業は素晴らしい、皆さんもその仲間として、良、体験をさせて、
のが入って、にお便りを読んで、解りました、
そのお便りへの返信と、お礼を伝えたくて
町役場へ伺い、便り致しました。
ありがとうございました。
六月二日

★★★★★ 美味しいです!!
2022/05/29 20:02:58
投稿者: (このレビューを削除する)
職場の友人とシェアしました。大小入り混じって、すごく綺麗で美味しくそんな玉ねぎでした。お店で買ってもここまで綺麗なものはありません。スライサーでサラダにして、何もせずに食べてみました。さすがにみかんのように甘いとまではありませんでしたが、甘味があり美味しく食べられました。スープやマリネにしてもとても美味しかったです。来年も楽しみにになりました。可愛い手書きのお手紙も嬉しかったです。

津奈木小学校の生徒の皆さんへ
初めましてこの度、皆さんの育てた玉ねぎも
送って頂き、ありがとうございます。
大変甘くて、水々しくびじくり致しました。
新玉ねぎは、水分が多くて痛み易いですが
数日経ても、色も変わりません
きと収穫された条件、玉ねぎそのものの育ち
が良かったのでしょうか。
豊洲市場を通じて購入しましたが、こちらは見
ていただいた町役場に連絡して
バラバラの
追加購入しました。



どうすれば魅力が伝わるのか—

小学生たちが話し合い、考え、さまざまな工夫をこらし完成したウェブページ。サラダ玉ねぎの魅力伝えたい、そして味わってほしい—。思いがこもったウェブページが公開されるまでの裏側を追いました。



サイトで販売したサラダ玉ねぎの売り上げの一部を小学生へ寄付した株式会社食文化の井上真一さん。来年の販売に活用する予定

ウェブページの作り方やメールアドレス、マージンの書き方、マーケティング（市場戦略）を学びました。ウェブページのトップ画面には、「えっ!?小学生が会社!」や「津奈木小のサラダ玉ねぎはみかんと同じ甘さ!」といった印象的なフレーズが使われていました。生でも甘く、熱を通すとさらに甘い特長を「二刀流」と表現し、レシピを紹介することで、魅力をアピール。また、日本四大公害病の一つ「水俣病」があった過去を教訓に、減肥料・減農薬で栽培していることも載せています。
マーケティング教育の中で、消費者のニーズを考え、工夫し、完成したウェブページ。販売されたサラダ玉ねぎ300箱は、数日で完売し、大きな反響がありました。

新型コロナウイルスがきっかけで始まった取り組み
津奈木町では、2013年から耕作放棄地の有効活用と食・農・環境教育を目的として、小学生がサラダ玉ねぎの苗植えと収穫をしています。このサラダ玉ねぎはつなぎFARMの取り組みで、農薬や化学肥料をできるだけ抑えた「減肥料・減農薬栽培」で育てられたもの。
収穫した玉ねぎは、学校給食への利用や東日本大震災と熊本地震の被災地へ贈られていましたが、2年前に新型コロナウイルスの影響で休校になり、実施できない状況に。行き場をなくしたサラダ玉ねぎを救うべく、株式会社食文化が運営する通販サイトで販売したところ、完売するだけでなく、購入者からお礼や再購入したいという手紙が届きました。
これをきっかけに「小学生に消費者へ商品が届くまでの仕組み、販売のおもしろさを知ってもらいたい。そうすることで食・農・環境教育にさらに深みがでるのではないか—」その思いから町と株式会社食文化が「子どもの農業を通じたマーケティング学習に関する連携協定」を結び、本事業がスタートしました。
6年生は同社のオンライン授業で



出荷
町の魅力が色鮮やかに描かれた箱の中に、おいしそうなサラダ玉ねぎと、小学生が書いた感謝の手紙が入れました。



収穫
大きく育ったサラダ玉ねぎ。傷を付けないよう、丁寧に収穫しました。その収穫量はなんと3.5ト。小学生の思いが一つあった瞬間でした。



段ボールデザイン
出荷される段ボールには、町の名所や柑橘、魚介類などさまざまな特産物が描かれ、かわいらしいデザインになりました。



ウェブページ作成
オンライン授業を含む10回の授業で学んだことを基に作成。サラダ玉ねぎの魅力と子どもらさあふれる記事が完成しました。



オンライン授業
全国の農産物の値段当てクイズなどを交えて楽しく授業。小学生はサラダ玉ねぎの歴史や生産量などを調べ発表しました。



草取り
サラダ玉ねぎが大きく育つためだけでなく、畑の景観を守るために草取りをしました。地味な作業ですが、とても大切です。



植え付け
約15畝の畑に一本一本苗を植える作業はとても根気が必要です。おいしく育ててほしいという思いで取り組みました。

サラダ玉ねぎが届くまで
JAあしきた津奈木青壮年部の協力のもと、昨年12月の植え付けから始まり、半年かけて育てたサラダ玉ねぎ。活動に励む小学生たちの姿を流れに沿って紹介します。



1

2

3

箱に詰めた、ふるさとの香りと思い—

毎年5月に開かれる「サラダ玉ねぎ収穫体験」。収穫後は、小学生が「段ボールデザイン」「箱詰め」「お礼の手紙の収納」も手がけました。小学生や先生、農家に話を聞くと段ボールには入りきれないほどのたくさんの思いが詰まっていた。



4



5

1_トラックいっぱい積まれたサラダ玉ねぎ。全国の購入者へ届けられた/2_出荷された箱の中には児童からの感謝の手紙とつなぎFARMのパンフレット/3_サラダ玉ねぎの根と葉を切る作業。意外と難しい/4_重さを調整しながら箱詰め/5_大きくなったサラダ玉ねぎをいざ収穫

5月20日(金)、3～6年生が津奈木保育園近くの畑でサラダ玉ねぎの収穫体験。JAあしきた津奈木青壮年部・女性部の協力のもと、収穫に臨みました。苗植え、草取りなど、苦勞を乗り越えて育てたサラダ玉ねぎ。小学生は一つひとつ丁寧に収穫し、コンテナで運びました。元は耕作放棄地だったこの畑ですが、つなぎFARMの取り組みにより以前のような景観と栄養のある、豊かな畑へと復活。こゝしは約3・5tのサラダ玉ねぎを収穫できたそうです。

収穫されたサラダ玉ねぎは、同月24日(火)に5・6年生によって購入者への感謝の手紙と一緒に、全国へ届けられました。出荷された箱には、現在の2・3年生によって津奈木町の名所や特産物が色鮮やかに描かれています。これは「全学年がこの取り組みに関わってほしい」という先生の思いからでした。

ほとんどの学年がそれぞれの役割で取り組んだ本事業は、ウェブページの見出し文にあった「学校で会社を経営している」ような取り組みとなり、新聞各社にも取り上げられました。



参加者の声



物の「価値」について考える

教頭
今嶋 英明 さん

最初は本当にできるのだろうかと不安もありました。しかし小学生たちは見事にやり遂げ、とても感動しました。今回の取り組みの目的は、物事を多面的に見てもらうこと。そしてサラダ玉ねぎの生産から販売までの全てに携わるという「キャリア教育」を受けてもらうことです。特に、販売に携わることで物やお金の価値を考える機会があったことは小学生たちにとって貴重な経験だったと思います。

この素晴らしい取り組みがさらに盛り上がるよう、保護者の皆さまや津奈木町の発展に関わる人たちのご協力をいただければ幸いです。



サラダ玉ねぎを思い出の1ページに

JA あしきた津奈木青壮年部長
林 辰徳 さん(倉谷)

小学生に町の特産物であるサラダ玉ねぎができるまでの作業を体験してもらい、農業に少しでも興味を持ってもらえたらうれしいです。農業体験で収穫や出荷だけでなく、自分たちで売り込む。このような貴重な経験をしたことは良い思い出になるのではないのでしょうか。これから小学生が会う人たちにその思い出と一緒に町の魅力も伝えて欲しいです。

未来を担っていく小学生が、町の特産物やそれに関わる人たちと直接ふれあうこの事業をもっと多くの人に知ってもらい、少しでも農業の活性化につながればと思います。

大事な言葉は「要素分解」

6年生
野崎 雅貴 さん(中尾)



ウェブページを作るときに、サラダ玉ねぎを多面的に見て要素分解し、商品として魅力的な部分と逆にマイナスな部分について考えました。また、若い人にも興味を持ってもらえるよう、流行語を紹介文に取り入れたことも工夫の一つです。本当に売れるのか心配でしたが、完売したことを知りとても驚きました。

今回学んだことは、インターネットを通じて画面の向こう側には人がいることをよく考えることです。サラダ玉ねぎを買ってくれる人のことを思い、ウェブページを作ったことはとても良い経験となりました。

体験して知った、農業の大変さと楽しみ

5年生
濱田 悠伸 さん(丸岡)



農業体験の中で楽しかったことは、苗植えです。広い畑全てに植え付けが終わったときは、とても達成感がありました。一番大変だったことは、収穫したサラダ玉ねぎの根と葉を切る作業です。1軒くらい間を空けないと、皮が割れて見栄えが悪くなってしまいます。買ってくれた人においしく食べてほしい。そして来年も買ってもらいたい。そんな思いで、作業を頑張りました。

来年は私たちがウェブページを作ります。より多くの人に心を込めて作ったサラダ玉ねぎを届けられるよう一生懸命取り組みたいです。



【株式会社食文化】

生産者と消費者をつなぐ架け橋に。 食の力で元気と幸せを届けたい—

生産者と一緒に、食卓に「元気」と「幸せ」を届けたい—
その実現を目指して、全国各地の食材を取り扱う通販サイト「うまいもん
ドットコム」、「豊洲市場ドットコム」などを運営している株式会社食文化。
小学生にオンライン授業をした井上真一さんに話を聞きました。

舌だけでなく
心で感動を味わってほしい

私が食で感動を味わったのは、娘が授業で収穫した大根を食べたときでした。この感動を子を持つ世代だけでなく、もっと幅広い世代に知ってもらいたい。そんな思いがきっかけでこの取り組みを始めました。

物の価値はおいしさや品質だけでは決まらないと私は思います。生産者の思いや産地の文化を伝える商品は、それだけで大きな価値を生むはず。実際に小学生が作ったサラダ玉ねぎには、「ありがとう」や「感動した」



株式会社食文化 取締役
井上 真一 さん

という手紙が届きました。これはかなり珍しいことなんです。

多面的に商品の魅力を考える

マーケティングを学ぶうえで小学生が一番覚えてほしかったことは「多面的に見る」ことです。サラダ玉ねぎが生産されている津奈木町はどんな町なのか、どんな工夫をして栽培されているのか、誰が作っているのかなど、それぞれの要素に分解すると一つひとつの良い所が見えてきます。これを消費者に伝えることができます。玉ねぎが好きな人はもちろん、そうでない人にも津奈木のサラダ玉ねぎの良さをより理解してもらえれば幸いです。

【プロフィール】

2005年に株式会社食文化に入社、2013年取締役就任。現在は豊洲市場を活動拠点に「食のトータルプロデューサー」として、こだわり食品の仕入れ、プロデュース、マーケティング業務に従事。前職でのオーガニック食品専門店を含めて23年におよぶ販売経験を生かし、行政、JA、企業と共に全国各地の商品プロデュースやマーケティング業務にも関わる。「商品の魅力を引き出し、伝えたい」という思いを胸に、豊洲市場ドットコムなど、通販サイトを立ち上げ、生産者と消費者とのつながりを全国に広げている。

物事を「多面的に見る」ことは、

マーケティングに限らず、この先の人生で重要なことです。人の壁にぶつかったとき、物事を多面的に捉え、分解して考えることで、未来は大きく変わります。今回の取り組みの中で小学生にこの力が少しでも身に付いてくれたらうれしいです。

津奈木町はアートと自然に恵まれた素晴らしい町です。今回の取り組み以外にもいろいろな活動をしていて、行動力あふれる活気ある町でもあります。これからも、町と子どもたちの力で地方の食文化をさらに盛り上げるこの活動が続くことを願っています。

子どもたちと津奈木町の 農業の未来を見据えて—

サラダ玉ねぎを育て、その魅力について考え、消費者へ届ける。
小学生は、今回の事業で、多くのことを学び、経験しました。
町の魅力や農家の苦労。物事を多面的に見る力。物やお金の価値を考えたこと。農家や企業と協力し、サラダ玉ねぎを完売させたこと。

これらは、小学生がこの先、困難にぶつかったときに、乗り越えるための糧となるでしょう。

サラダ玉ねぎの魅力、町の魅力、生産者の思いを消費者へ届ける「アグリビジネスチャレンジ事業」。それは、マーケティング教育の枠にとどまらず、津奈木町の農業発展への種まきとなり、小学生の未来へとエールを届ける取り組みとなるのではないのでしょうか。

【特集】思いを、届ける。(完)